

共和町義務教育学校

開校準備委員会だより2

発行日

令和5年7月21日

編集・発行

共和町義務教育学校

開校準備委員会

事務局 共和町教育委員会 学校適正配置推進室 電話 0135-67-8814

いろいろな学校を視察しています！

本町義務教育学校の基本設計に生かすため、道内はもとより、国内外のいろいろな学校を視察しています。

6月29日、安平町立早来学園へ視察に行ってきました。

6月29日、今年4月に義務教育学校として開校した安平町立早来学園を視察してきました。

- 1 日時 令和5年6月29日(木) 10:00～
- 2 対応 安平町教育委員会次長 永桶 憲義 様
- 3 視察参加者

小林 英樹 教育長、佐々木従行 教育長職務代理者、駒形 貴之 教育委員
小野 宏将 教育委員、佐藤 寛 北辰小学校長、植松 真将 西陵小学校長
酒井 龍一 教育次長、楠美 紀貴 管理課総務係長、大坂 充 主任専門員

の9名に、創建社からも4名が参加しました。

はじめに、教育委員会の永桶 次長より、開校までの苦労話や本町からの質問への回答をいただきました。ある意味平成30年に起きた北海道胆振東部地震による被害がきっかけとなったが、ちょうどその年の4月から小中一貫教育を実施していたことが義務教育学校開校にとっては大きかったそうです。それでも、小学校と中学校の学校文化の違いを理解し合い、埋めていく作業は簡単ではなく、今も苦労しながら進めているとのことでした。

これからの時代の教育を目指して設計を行い、教育委員会と学校現場、地域の皆さんが話し合う場を多く設定し、たくさんの方々の知恵と苦労が結集した学校だと話されました。

その後、実際に校舎を見学しました。開放的な職員室は、管理職や事務職員以外は固定の机を持たず、共有のパソコンと自分専用のロッカーから必要なもの取り出し、好きな席(場所)で仕事をします。1～6年生の教室は、学年毎に入り口があり、その中に普通教室の1.5倍くらいの広さを確保し、さまざまな学習形態に対応できるとともに、子どもたちにゆとりを与えてくれます。7～9年生は、ホームルーム(教室)を持たず、ホームベースと呼ばれる個人のロッカーや談笑できるくらいのスペースから各教科の特別教室に移動して授業を受けます。その他、地域と共有できる図書館や大中アリーナ、キッチン(家庭科室)、図工室、音楽室(スタジオ)なども、これまでの学校施設から一歩も二歩も前進した姿を見せてくれました。(詳しくは、安平町のホームページをご参照ください。)



ゆとりある低学年の教室



地域と共用の図書館



最新設備の大アリーナ

7月13日、小樽市内の学校へ視察に行ってきました。

7月13日には、教育委員会適正配置推進室3名が小樽市の山の手小学校、菁園中学校、稲穂小学校の3校を訪問し、特徴的な校舎・施設設備や通級指導教室、特別支援学級の施設設備や運用等について視察してきました。

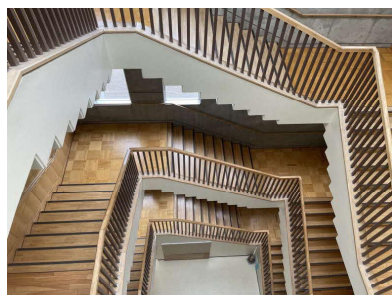
小樽市内では最も新しく平成30年に開校した山の手小学校では、職員室の配置やオープンスペースをもつ教室、特別教室や放課後児童クラブなどについて説明を受けながら視察しました。

菁園中学校では、中学校としての施設設備面や、部活動等における学校施設使用、廊下などの空きスペースの使い方などについて視察しました。

稲穂小学校は築28年の建物ですが、当時は最新の学校施設として建てられ、多くの視察を受け入れた学校として、今なお効果的だと思われる施設設備や反対に不要だったもの、さらに6名の通級指導教員を抱える学校として、通級指導教室の環境整備等についても説明していただきました。



山の手小学校(教室)



菁園中学校(中央階段)



稲穂小学校(通級プレイルーム)

6月18日～23日、イギリス国際教育機関視察

6月18日～23日には、町長、教育委員、企画振興課長、主任専門員の4名が、イギリスへ国際教育機関視察に行ってきました。

ロンドン市内中心部にある「ウェストミンスター・スクール」や「オクスフォード大学」とそのカレッジ、実験的な都市拡張を進める町「バウンドベリー」、「ラグビー校」などを視察してきました。

日本とは全く違う歴史と文化を持つイギリスにおいて、どのようなことを重視して学校がつくられ、どんな方法で教育活動が行われているか、さらに今後はどう展開していくのか等について、学ぶことが多い国際教育機関視察でした。

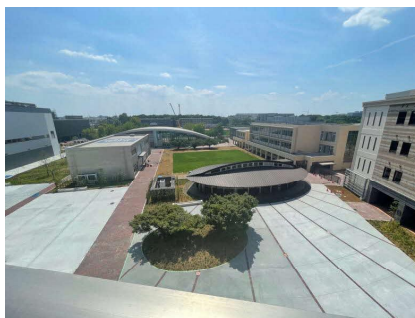


ラグビー場から校舎を臨む

7月18日、ラグビー校ジャパン（千葉）視察

7月18日、町長と主任専門員は、千葉大学柏の葉キャンパス内に9月に開校予定の「Rugby School Japan(ラグビー・スクール・ジャパン)」の視察に行ってきました。開校まで2ヶ月となり、急ピッチで進む工事の中、ほぼできあがった施設を中心に視察しました。

イギリスのラグビー校の伝統を引き継ぎながら、さらに新しい時代を切り開く人材を育成するために、施設設備面からどのようにアプローチしていくかを、同校理事長であるフェイ・フェイ・フウ氏のお話を聞きながら見学することができました。



屋上から校舎を臨む

※今後も、開校準備委員会の委員の皆様等による道内の義務教育学校の視察を予定しています。